Express5800/FW500c　　はじめにお読みください

Empowered by Innovation NEC

Startup Guide

856-124045-633-00　2004年11月　初版

＊856-124045-633-00＊

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「安全にかかわる表示について」、「使用上のご注意 -必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード×2
- フロントベゼル
- セキュリティキー（本体背面に貼り付けられています）
- ラック搭載用取り付け部品（ユーザーズガイド[*1]参照）
- Yケーブル(KB/MS用)
- ソフトウェアパッケージ一式（バックアップCD-ROMを含む）
- EXPRESSBUILDERパッケージ[*2]
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)（DianaScopeのライセンス）
- お客様登録申込書
- 保証書（本体梱包箱に貼り付けられています）
- 使用上のご注意
- ご使用時の注意事項
- ユーザーズガイド[*1]
- フロントベゼル取り扱い上のご注意
- スタートアップガイド（本書）

重要　添付のCD-ROMは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

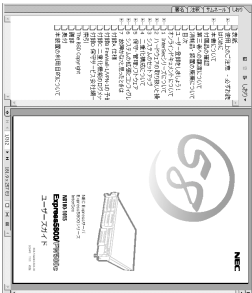
*1 ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドやその他のオンラインドキュメントはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルで、次のHTMLファイルから表示させることができます。

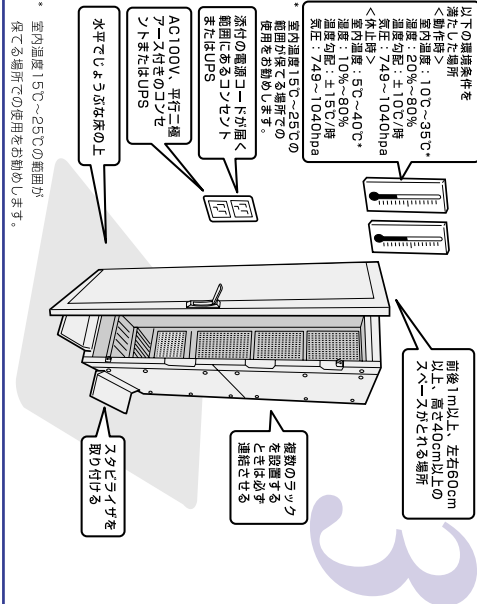
<バックアップCD-ROM>:/manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント　PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Acrobat Reader 日本語版バージョン4.0以降が必要です。Adobe Acrobat Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます(http://nec8.com/　→　[サポート情報]をクリックしてください)。

3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックか、卓上に設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

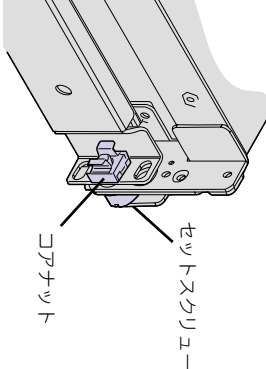
重要　ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

* 室内温度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

4 本体を取り付ける

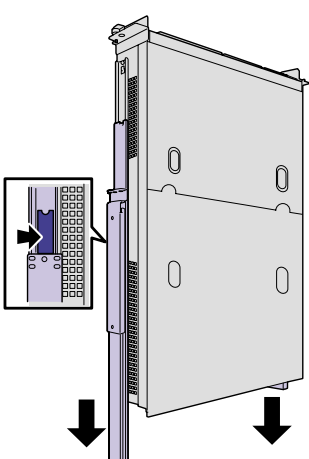
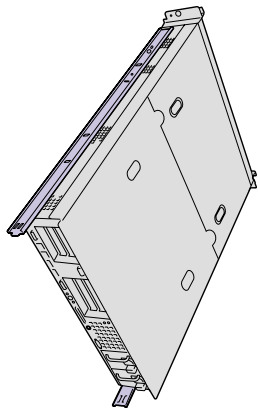
本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

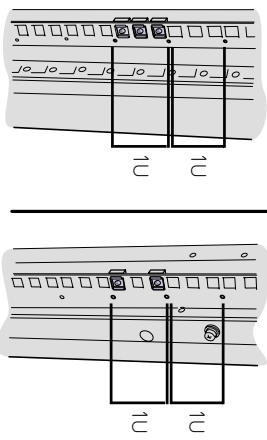
重要　ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

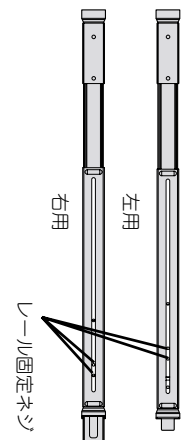
1. 本装置の添付品から、M5ネジ(8本)とM5コアナット(10個)を用意する。

2. 本体前面部の両側にあるセットスクリューを回して、裏側に取り付けられているコアナットを取り外す。

本体の運搬時にスライドレールが外れないようにセットスクリューとコアナットで固定されています。ラックへの取り付け前に左右に付いているコアナットを取り外してください(コアナットを手でしっかりと持ちながらセットスクリューを回してください)。

3. 本体左右に取り付けられているレールアセンブリを取り外す。

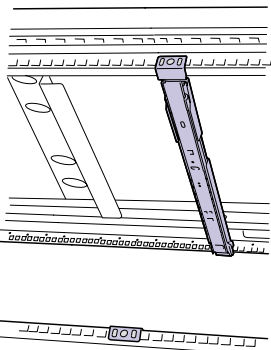
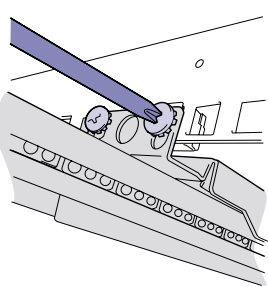
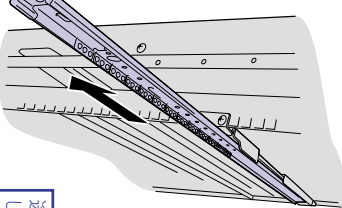
取り外しの途中でレールがロックされます。レリーズレバーを押して、ロックを解除しながら装置後方へスライドさせてレールを取り外してください。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。

> レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。
>
> レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

4. ラックの前後のマウントフランジにコアナットを取り付ける。

コアナットは前面側に各3個、背面側に各2個を取り付けます。本体はラックの「2U」分の高さを使用します。レールアセンブリは2Uのうち、下側の1Uに固定します(ラックのフランジ部には1U単位に刻印などの印があります)。

5. レールアセンブリの形状を見て、右用と左用を確認する。

6. レールアセンブリのレールを固定しているネジをゆるめる(手順⑤の図を参照)。

ラックの奥行きに合わせて長さを調節するためです。

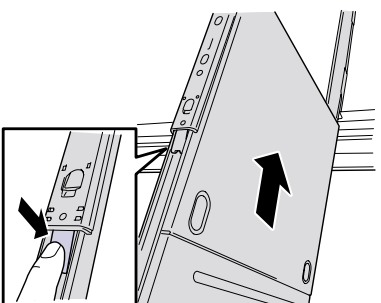
7. コアナットを取り付けた場所にレールのフレームを合わせる。

コアナットとレールのフレームでラックのフレームを挟むように位置させ、レールの長さを調節してください。

8. 前面と背面をネジで固定する(各2本)。

9. レール固定ネジを固定する。

10. 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

11. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるレリーズレバー(左右にあります)を押しながらゆっくりと押し込みます。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。

12. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

> ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。
>
> スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

13. 本体をラックへ完全に押し込み、前面の左右にあるセットスクリューでラックに固定する。

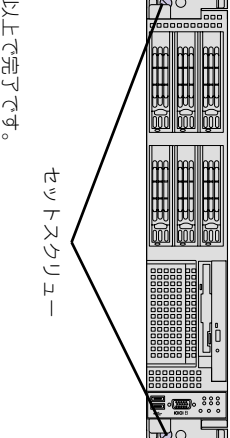
以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

外部LAN　2 No.2　1 No.1　内部LAN　添付の電源コード　最後にコンセントへ　最後にコンセントへ

重要　システムが割り振るLANポート番号はハードウェアの構成によって可変します。この後のシステムのセットアップの際に間違わないよう注意してください。

- 標準装備のときは、1がLAN No.1、2がLAN No.2
- オプションのネットワークインタフェースカード(NIC)を装着しているときは、ユーザーズガイドの3章「2.システムのセットアップ」－「ネットワークインタフェースとCPU増設の設定」を参照してください。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

ステップ6以降では、一体型構成のセットアップの流れを説明します。「二重化分散構成」を構築する場合は、ステップ7の後、ユーザーズガイドの4章を参照してください。

商標について

初期導入設定用ディスクを作成する

本装置をFirewallとして運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「初期導入設定用ディスク」とWindows XP/2000、またはWindows NT 4.0、Windows Me/98が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「1. 初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

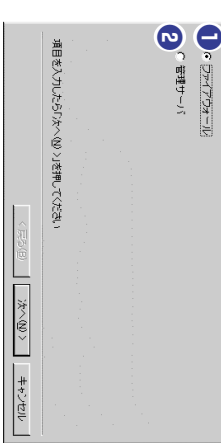
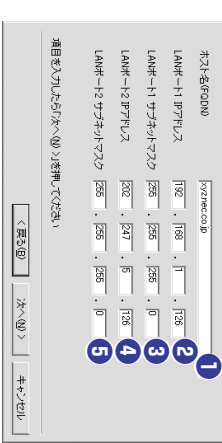
1. Windowsマシンを起動し、添付の「初期導入設定用ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

   初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。

2. フロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

   初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は、警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

3. [次へ]をクリックする。

4. Firewallの種別を選択する。
   - ❶ ファイアウォールとして運用するとき
   - ❷ 管理サーバとして運用するとき(二重化構成時)

5. ネットワークの設定をする。

   ❶〜❸は設定必須の項目です。❹と❺は、4で「ファイアウォール」を選択した場合に設定が必要となります。

6. ルーティングを設定する。

   ❶は設定必須の項目です。

7. 管理者のメールアドレスとリモートメンテナンスの設定をする。

   ❶は設定必須の項目です。

8. Web Management Console(WbMC)に関する設定をする(任意)。

   WbMCを使用してシステムに接続する場合に設定します。パスワードの入力の際は、タイプミスのないように注意して入力してください。

9. セキュアシェル(SSH)に関する設定をする(任意)。

   SSHを使用してシステムに接続する場合に設定します。パスワードの入力の際は、タイプミスのないように注意して入力してください。

すべての入力が完了したら、設定した内容が初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

初期導入設定情報をロードする

初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章「1. 初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

1. ステップ6で作成した初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

2. 本体の電源をONにする。

   セットアップを開始します。2〜3分ほどで完了します。

3. フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、初期導入設定用ディスクを取り出す。

   セットアップに失敗した場合は、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使って初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「1. 初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

システムにログインする

管理クライアントからシステムへの接続には3つの方法があります。接続に関する詳細は、3章「1. 初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

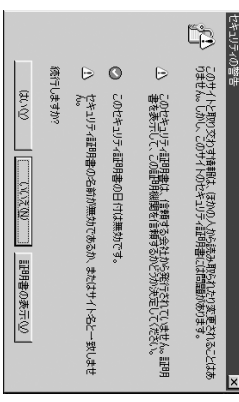
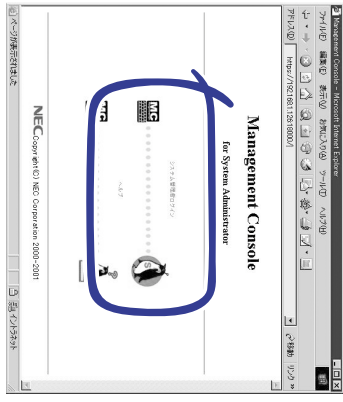
- セキュアシェル(SSH)を使用する
  1. SSHのクライアントソフトを用意する。
  2. 管理クライアントと本体背面にあるLANポート(内部ネットワーク用)をクロスケーブルで接続するか、本体が接続されている内部ネットワークのハブなどに管理クライアントのLANケーブルを接続する。
  3. ステップ6のSSHに関する設定で入力した管理者アカウント名とパスワードを入力し、ログインする。
  4. ログイン後、rootユーザに変更する。

     ```
     # su -
     Password:
     ```

     本体に添付の「rootパスワード」に書かれているパスワードを使用します。

- Web Management Console(WbMC)を使用する
  1. 本体と同じ内部ネットワークにある管理クライアントを起動する。
  2. 管理クライアントからWebブラウザを起動する。

     WebブラウザはInternet Explorer 5以上を使用してください。
  3. URLに「https://nnn.nnn.nnn.nnn:18000/」と入力する。

     nnn.nnn.nnn.nnnは本体の内部ネットワークに割り当てたIPアドレスです。
  4. セキュリティの警告画面で[はい]をクリックする。
  5. ステップ6のWbMCに関する設定で入力した管理者アカウント名とパスワードを入力し、ログインする。
  6. [システム管理者ログイン]をクリックする。

- コンソールを使用する

  「ユーザーズガイド」の3章を参照してください。

システムのセットアップをする

「初期導入設定用ディスク」を使ったセットアップを行った後、基本設定ツール(fwsetup)を使用して、Firewallとしての詳細なセットアップを行います。ここでは、SSHを使用した手順について説明します。 詳しくは、ユーザーズガイドの3章を参照してください。二重化構成を構築する場合は、4章も併せて参照してください。ネットワークインタフェースやCPUを増設した場合は、fwsetupを実行する前にユーザーズガイドを参照し、設定を行ってください。

fwsetupを起動します。

```
# fwsetup
```

fwsetupでは以下の項目が設定可能です。★印の項目は初期導入設定用ディスクにて設定済みの項目のため、設定内容を確認後、必要に応じて、それぞれの値を設定/変更してください。

- [★] サーバ種別(server type)
- [★] ホスト名(hostname)
- [★] インタフェース(interface address、netmask、mtu)
- [ ] ネームサーバ(nameserver)
- [★] 管理者メールアドレス(administrator e-mail address)
- [★] メールゲートウェイ(mail gateway)
- [★] デフォルトゲートウェイ(default gateway)
- [★] 静的ルーティング(static routing)
- [ ] TRAP送信先ホスト(trap sink host)
- [ ] NTPサーバ(NTP server)
- [ ] ログ保持期間(log file rotation)
- [ ] 二重化(Use cluster system)
- [★] WbMC(use firewall Web Management Console (WbMC))
- [★] SSH (use secure shell(SSH))
- [★] WbMC使用者パスワード変更([WbMC] change password for user xxxx)
- [★] SSH使用者パスワード変更([SSH] change password for user xxxx)
- [ ] rootパスワード変更(change root password)

  セキュリティのためにも、出荷時のものから変更することをお勧めします。
- [ ] 必要なサービスの起動/不要なサービスの停止 (replace startup-scripts)

  必ず<Y>キーを押してください。

設定完了後、設定を有効にするためシステムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

FireWall-1のコンフィグレーションをする

FireWall-1付属のコンフィグレーションツール(cpconfig)を使用してFireWall-1のコンフィグレーションを行います。二重化構成の場合は、4章を参照してください。

ファイアウォールにログインし、rootユーザに変更後、cpconfigを実行して以下の項目を設定してください。

```
# cpconfig
```

1. <Enter>キーを入力後、使用許諾書を読み、承認した場合、<y>を入力する。
2. "Please select one of the following options" にてライセンスに合わせてインストールする製品を選択する。
3. "Select installation type"にて「(1) Stand Alone - install VPN-1 Pro Gateway and SmartCenter Enterprise.」を選択する。
4. "Do you want to add licenses"にて<y>を選択し、<m>入力後、ライセンス情報を投入する。
5. "Do you want to add administrators"にて<y>を選択し、管理者名とパスワードを入力する。
6. "Permissions for all products"にて書込み/読込みが可能となるように<w>を選択する。
7. "Permission to Manage Administrators"にて管理者の権限を付与するために<y>を選択する。
8. "Add another one "にて管理者を追加する場合は<y>、登録を終了する場合は<n>を入力する。
9. "Do you want to add a GUI Client"にて<y>を選択し、管理クライアントのIPアドレスを入力する(複数設定する場合は、改行して複数行入力する)。
10. 設定完了後、<Ctrl>-<D>を入力し、<y>を入力する。
11. 管理クライアントの設定が正しければ、"Is this correct"にて<y>を入力する。
12. "Please keep typing until you hear the beep and the bar is full."にてバーがフルになるまでランダムにキーを入力する。
13. "Do you want to save it to a file"にてGUIクライアント接続時、接続したFireWall-1が正しいものであるかどうかを確認するための文字列が表示されるため、保存する場合は<y>、保存しない場合は<n>を入力する。
14. "Do you want to reboot"にて<y>を入力し、再起動する。

    再起動後、FireWall-1のデフォルトフィルタが有効になり、SSHやWbMCでの接続ができなくなります。

セキュリティポリシーをセットアップする

セキュリティ機能をセットアップする「SmartDashboard」をWindows XP/2000/NT 4.0(SP6以上)、Windows Me/98で動作する管理クライアントにインストールし、ポリシーを作成します。詳しくは、ユーザーズガイドの3章「3　セキュリティポリシーのセットアップ」を参照してください。

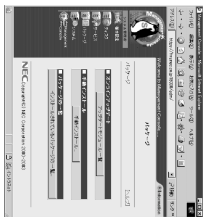
インストールには、添付の「Check Point Internet Security Solutions」CD-ROMを使用します。

バックアップを取得する

fwbackupコマンドを使用してセキュリティポリシーなどのバックアップを取得します。詳しくは、ユーザーズガイドの3章「4　バックアップ」を参照してください。

```
# cpstop ---------- バックアップを取得する際は、Firewallの運用を一時停止する必要があります。
# fwbackup ------ フロッピーディスクを用意し、コマンドの指示に従ってください。
# cpstart---------- Firewallの運用を開始します。
```

オンラインアップデートでシステムをアップデートする

本装置のシステムを最新の状態にアップデートします(購入時のシステムバージョンによってはアップデートをする必要がない場合もあります)。詳しくはユーザーズガイドの3章「5. オンラインアップデート」を参照してください。

残りのタスクを完了させる

ユーザーズガイドの5章を参照して以下のタスクを完了させてください。

- ESMPRO/ServerAgentのセットアップ
- 管理コンピュータのセットアップ

以上で完了です。